

吉田神道	両部神道
山王神道	一の宮
総社	神社本庁
内陣	伊勢信仰
伊勢信仰	伊勢信仰

<p>(リョウブシントウ) 仏教の真言宗(密教)の神道解釈に基づく神仏習合思想(両部習合神道リョウブシュウゴウシントウ) 密教では宇宙は大日如来の顕現とされ金剛界と胎蔵界の両部の曼陀羅に描かれた仏菩薩</p>	<p>室町)京都 吉田神社の神官により大成された神道の一流派(唯一神道、元本宗源神道)吉田家祖先神アミノコヤネミコにより伝えられた正統的神道とする</p>
<p>ある地域の中で最も社格の高いとされる神社(一宮一之宮)通常単に「一宮」という場合、令制国の一宮を指すことが多い</p>	<p>(さんのうしんとう) 平安末期 鎌倉に天台宗総本山の比叡山延暦寺で生まれた神道の流派(狭義に江戸時代の天海以前のが山王神道) 山王</p>
<p>神宮(伊勢神宮)を本宗と仰ぎ、日本全国約8万社の神社を包括する宗教法人。神社本庁では伊勢神宮が古来、至高至貴神社であるので、全国の神社の総親神として本宗と仰ぐ。</p>	<p>(ソウジャ惣社)地域内の神社の神を集め祀った神社。国の神社を集めたもの、荘園や村の神社を集めたもの郡・郷の総社も。古代日本の国司にとって、着任後最初の仕事は国内の全ての神社を巡って参拝することであった。</p>
<p>伊勢神宮に対する主として庶民の信仰『太神宮諸雑事記ダイシングウシヨウジキ』に934神嘗祭の日に「参宮人千万貴賤を論ぜず」と記され1031.6月の月次ツキナミ祭にも多くの参宮人のあったことが記されるが当時はまだ私幣禁断</p>	<p>内陣(ないじん)は、寺院の本堂内部において本尊を安置する場所外陣(げじん)と対置される。神社の本殿内部において神体を安置する場所をさして、またキリスト教の教会建築におけるbema, chancelの訳語としても用いられる。</p>
<p>近世には幕末まで50～60年ごとに爆発的にお陰参り・抜け参りと称する多数の参宮者が出るがあった。これは伊勢の御札が天から降ったという噂を機に、殆ど無銭で参宮に出かけるもの。路次ロシの家で食事を与え助けた</p>	<p>中世初頭、源頼朝が神宮に神馬シメ幣帛を奉り御厨ミクヤ御園ミノを寄進して以後東国以外に諸国の武士も。僧侶の参宮も増加し伊勢神宮権禰宜層が御師オシとして各地を回り熊野信仰</p>

出雲	御師
春日信仰	春日信仰
天神信仰	菅原道真
記紀	古語拾遺
祝詞	先代旧事本紀

<p>オシ)特定の社寺に所属しその社寺へ参詣者を案内.参拝宿泊の世話をする者。特に伊勢神宮のはオソシと読んだ。御師は街道沿いに集住し御師町を形成する。師檀関係にある檀那ダシナの願意を神前に取次、祈願を代表する神職。</p>	<p>出雲大社およびその主祭神大国主命の神徳に対する信仰。古くから人々の生活の安泰を保障する神として崇敬されていた。中世以降大社の御師オシによる布教活動が盛んに行われ広範な地域に伝播</p>
<p>やがて春日大明神の靈験や縁起が説かれ、春日大社第四殿の比売神ヒメミが伊勢大神とされ、第三殿の天児屋根命アメノヤネミコと天照大御神の関係が説かれるなど伊勢信仰との関連が生じた</p>	<p>春日大社の祭神(春日大明神)に対する信仰。大社の創建は藤原氏の氏神として常陸鹿島の神を迎えた。原初的には祖先崇敬を基盤とした信仰。神仏習合思想が発展すると興福寺は春日大明神を法相擁護の神と説く。</p>
<p>平安時代の学者,漢詩人,政治家.宇多天皇に重用され昇進し醍醐朝では右大臣に.左大臣藤原時平の陰謀で大宰府へ左遷され現地で没.死後天変地異が多発し朝廷が天満天神として祀り信仰の対象に.現在は学問の神</p>	<p>天神(雷神)に対する信仰.特に菅原道真を天神様として畏怖・祈願の対象とする.本来天神は国津神に対する天津神で特定の神の名でなかったが道真が死後火雷天神と呼ばれ雷神信仰と結びついたのが由来</p>
<p>平安時代の神道資料.官人,斎部広成が編纂.大化の改新以降,同様に祭祀を司っていた中臣氏が政治的力を持ち祭祀も役職は中臣氏のみだった為,斎部氏の正統性を主張する為著されたものと考えられる</p>	<p>古事記と日本書紀との総称.両書とも奈良時代に編纂された日本の神話や古代の歴史を伝えている重要な歴史書.序盤は神話そのもので執筆年代に近づくとつれ歴史書の性格が強くなる</p>
<p>センダイクジホシキ 日本^の歴史的書物.学術的には偽書とされているが部分的には資料的に価値があるとする見解もある(旧事紀,旧事本紀)天地開闢から推古天皇までの歴史が記述されている</p>	<p>神前に奏上する詞コトハ 祭りにより場所により異なる.祝詞文構成は起首,由縁,献供,祈願or感謝,結尾などの章句からなるもの多くほかにも神徳,装飾,奉仕,祝頌シユクシヨウなどの章句を用いたものもある.祝詞事ノリゴトの略</p>

流造	神明造
撰末社	茅の輪
稻荷信仰	祇園信仰
白山権現	八幡信仰
宇佐神宮	八幡神

<p>シメヅク神社建築様式.伊勢神宮に代表される神明造は出雲大社等の大社造や住吉大社等の住吉造と共にもっとも古い神社建築様式.奥行きより幅が大きく高床式倉庫から発展したと考えられている</p>	<p>ナガレヅク神社建築様式.賀茂別雷神社,賀茂御祖神社に代表される流造は伊勢神宮に代表される神明造から発展し屋根が反り前に曲線形に長く伸びて向拝(コウハイ,庇)となったもの.全国で最も多い神社建築</p>
<p>夏越の祓で茅の輪潜ヅクリが行われる.氏子が茅製の輪の中を左回右回左回と八の字に三回通り穢れを祓うもの.由来</p>	<p>セツマツシャ)神社本社と別にその神社の管理に属し境内or神社附近の境外にある小規模神社で撰社セツマツシャ+末社マツシャの呼称(枝宮,枝社エダヤシロ)撰社</p>
<p>牛頭天王スサノオに対する神仏習合の信仰.明治の神仏分離以降スサノオを祭神とする神道の信仰.京都の八坂神社もしくは兵庫県の広峯神社を総本社とする.牛頭天王ゴステンノウは元々は仏教の神,祇園精舎の守護神であった</p>	<p>稲荷神,稲荷神社に対しての信仰.稲荷神を奉祀ホウシする稲荷神社は全国多数存在.江戸中期,総本社,伏見稲荷大社の分霊を各地に勧請し一段と盛行した.稲荷神は宇迦之御魂神ウカ(食物)ノミタマノカミ</p>
<p>全国各地の八幡神社or若宮八幡社などの神社信仰.本宮</p>	<p>白山比?神社(しらやまひめじんじゃ)は、石川県白山市三宮町に鎮座する神社である式内社、加賀国一宮で、旧社格は国幣中社。現在は、全国に2000社の白山神社の総本社とされる</p>
<p>八幡神ハチマンシン八幡大菩薩.八幡神を祀る神社は八幡神社,八幡社,八幡宮,若宮神社.稲荷神社に次ぐ多さ.応神天皇を主神としその母神功皇后,比売神で八幡神とも.親子神(母子神)信仰に基づくものだといわれる</p>	<p>大分県宇佐市.全国四万四千社と称する八幡宮の総本社.式内社,旧官幣大社(宇佐八幡,宇佐八幡宮)主祭神</p>

天神地祇	天津神・国津神
本地垂迹説	権現
伊弉諾尊	大日?貴神
伊弉冉尊	素戔鳴尊
大己貴命	大国主

<p>アマツミ,クニツミ天津神は高天原にいる,または高天原から天降った神の総称.国津神は地に現れた神々の総称とされている.高天原から天降ったスサノの子孫である大国主などは国津神とされている</p>	<p>天津神を「天神」(てんじん)、国津神を「地祇」(ちぎ)とも言い、併せて「天神地祇」「神祇」</p>
<p>日本の神々は仏教の仏が形を変えて姿を現したもののという本地垂迹説に基づいた神号.権という文字は臨時の,仮のという意味.仏が仮(権)に神の形を取って(現)れたことを文字で示している</p>	<p>(ほんちすいじゃく)とは、仏教が興隆した時代に表れた神仏習合思想の一つで、日本の八百万の神々は、実は様々な仏(菩薩や天部なども含む)が化身として日本の地に現れた 権現 (ごんげん) であるとする考えである</p>
<p>天照大神.太陽を神格化した神.皇室の祖神(皇祖神)の一.古事記</p>	<p>イザナギ 古事記:伊邪那岐命,日本書紀:伊弉諾神. 天地開闢時,神世七代最後にイザナミと共に生まれ 国産み神産.イザナミと日本国土を形づくる多数の子を産む.石,木,海(大綿津見神)水,風,山(大山津見神)野,火等森羅万象の神産む</p>
<p>スサノミコト日本書紀</p>	<p>イザナミ伊邪那美,伊弉弥,黄泉津大神,道敷大神火の神ガグツを産み火傷で死亡する際も排泄物吐瀉物から神々を生み古事記</p>
<p>八千矛神ヤチホコ葦原醜男,葦原色許男 神アシハラシコノオ大物主神,大國魂大神オホクニタマ顯 国玉神,宇都志国玉神ウツシクニタマ国作大己貴命,伊 和大神ワカヒコ伊和神社主神.所造天 下アメノシタツクラシシ大神,幽冥主宰カクリゴトシロシメス大</p>	<p>オホナムチ大国主.天の象徴</p>

風土記	令義解
吉田兼俱	本居宣長
唯一神明造	神嘗祭
神嘗祭	高天原
根国	根の国

<p>リョウキ'ノゲ 833に淳和天皇の勅により右大臣 清原夏野を総裁として、文章博士 菅原清公ら12人によって撰集された令の解説書全10巻。この書物によって、大宝令?養老令が伝えられている。</p>	<p>地方の歴史や文物を記した地誌のことをさすが狭義に日本の奈良時代に地方の文化風土や地勢等を国ごとに記録編纂して、天皇に献上させた書をさす.正式名称ではない.古風土記(他の風土記と区別)</p>
<p>江戸時代 日本の国学者・文献学者・医師.当時既に解読不能に陥っていた古事記の解読に成功し、古事記伝を著した.紀州徳川家に「玉くしげ別本」の中で寛刑主義をすすめた</p>	<p>ヨシダカネモ室町中期から戦国時代にかけての神道家.本姓はト部氏.家系は神道家のト部家の系譜,吉田家を興した.唯一神道の基礎を築いた.根本経典でもある「唯一神道名法要集」「神道大意」「神名帳頭註」を著</p>
<p>神宮(伊勢神宮)と宮中の祭礼である皇室の大祭でその年に獲れた新穀を天照大御神に奉る儀式.かつては旧暦9月11日に勅使に御酒と神饌を授け旧暦9月17日に奉納していた.皇居賢所で行われる.</p>	<p>伊勢の神宮の皇大神宮(内宮)・豊受大神宮(外宮)両宮の正殿(本殿)の様式は、他社においてこれと完全に同じくするのを恐れ憚って採用していないため、特別に唯一神明造(ゆいいつしんめいづくり)と呼ぶ</p>
<p>タカマハラ,タカアマハラ,タカノアマハラ古事記と祝詞に於ける天津神の住まう場所.地上の葦原中国や地中の根の国,黄泉に対し天上界にあったとされるが神話を現実的に解釈しようという立場から大和九州北陸富士山等諸説ある</p>	<p>神宮へは皇室から幣帛,勅使が遣わされ奉幣の儀が奉仕される.神宮では神嘗祭に御装束・祭器具を一新する.神宮の正月とも.神宮の式年遷宮は大規模な神嘗祭だと言われている.式年遷宮後最初の神嘗祭</p>
<p>『古事記』では「根堅州國」(ねのかたすくに)・「底根國」(そこつねのくに)、『日本書紀』では根国(ねのくに)、祝詞では根の国底の国(ねのくにそこのくに)・底根の国(そこねのくに)と書かれる。</p>	<p>ネノクニその入口を黄泉の国と同じ黄泉平坂ヨモツヒラサカとしている記述が古事記にあり根の国と黄泉の国は同じものと考えられている.しかし六月晦の大祓の祝詞では根の国は海の彼方または海の底にある国としている</p>